

2025 年度 学校法人 三幸学園 沖縄ビューティー＆ブライダル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 坂東 真弥

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 山下 直樹

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

前年度重点施策振り返り

＜教務目標＞ ■ 関係の質にこだわり、日々、一人ひとりの生徒と向き合い続ける

■ 楽しく、分かりやすく、学びがいのある授業にしてい

■ 個人、またはチームとしても情報共有を行い授業の工夫をしてい

■ 退学率：全学年 8%(進級学年:13%/卒業学年:2%)

＜キャリア・就職目標＞ 進路決定率 100%

① 学校関係者評価委員会コメント(坂東委員)

各教科において先生方が授業展開の工夫や振り返りシートの活用など、学生自身が成長実感を得られるような様々な取組を実施した。また、卒業生・企業様・先輩学生と連携した授業も積極的に行い、実践的かつ学びがいを感じられる取組も行うことができた。先生方が最後まで学生一人ひとりと向き合い、創意工夫を重ねながら授業展開を行った結果、授業アンケートについては全項目で全国の同分野姉妹校と比較して最も高い評価となった。特に、「授業に対する先生の熱意を感じる」3.88(4 点満点中)、「授業方法は生徒の興味を引くように工夫されていた」3.81(4 点満点中)と、学校で重視している学びがいを感じられる項目においても高い結果となった。また、資格取得においても、ブライダルプランナー検定 1 級、Ajesthe 認定上級エステティシャン、日本化粧品検定 2 級、特級コスメコンシェルジュなど、受験者全員が合格した検定もあり、各種コンテストでも入賞実績を残すことができた。一方で、例年同様に授業改善や学校運営に取り組んできたものの、学科・コースごとに教育の質に差が見られる部分もあったため、今後は学科・コースの垣根を越えた好事例の共有や授業力向上をさらに進め、どの学科・コースにおいても魅力的な授業を提供できるよう改善を図ってきたい。

退学率については、惜しくも目標達成には至らなかった。しかし、新入生・進級生ともに退学率は大きく改善し、昨年度比で全体 6.4 ポイント減少する結果となった。引き続き新入生の退学が課題として見られており、

「自分には向いていない」と早期に感じてしまうケースや、進路変更、生活習慣の乱れによる遅刻・欠席の増加から単位不良・退学につながるケースが多く見られた。そのため、引き続き入学直後から継続して楽しさや達成感を感じられる授業展開を行うこと、業界や授業の魅力を継続的に伝えていくことに加え、精神的・経済的理由による退学への対応として、カウンセラーとの連携強化や、基本的な生活習慣・登校習慣を整える指導（ノーム形成）を強化し、改善につなげていきたい。進路・就職決定率については 100%には至らなかったため、今後はより早期から進路指導を行い、学生が安心して国家試験や資格取得に集中できる環境づくりに努めていきたい。

② 学校関係者評価委員会コメント

・各教科で授業の工夫や振り返りシートの活用、卒業生や企業と連携した授業など、学生の学びがいを高める取り組みが着実に進んでおり、授業アンケートで全国姉妹校の中でも特に高い評価を得た点は大きな成果といえます。（山下委員：美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科）

・複数の資格で全員合格を達成するなど、学修成果の向上も明確に表れています。一方で、学科・コース間で教育の質に差が見られることから、好事例の共有や授業力向上に向けた取り組みをさらに深めていくことを期待します。（山下委員：美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科）

・退学率は改善傾向にあるものの、新入生を中心に課題が残るため、早期の動機づけや生活習慣のサポート、カウンセラーとの連携強化を継続していくことを期待します。（山下委員：美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科）

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

・全体会議は年 3 回実施し、理念や育成人材像について共有・説明を行っているが、単発的な発信だけでなく、対面でのコミュニケーションや各種ツールを活用しながら様々な場面で継続的に浸透を図っていく必要がある。

③ 今後の改善方策

・TEAMS や Google チャットを活用し、日頃からタイムリーに教員同士、教員と学生同士の情報共有、連絡できるようにする

・保護者連絡ツール(スクレ)を活用し、学校の取組や行事等について効果的に情報配信を行う。

・全体会議等の場においても、理念や育成人材像を繰り返し伝えることで、教職員への理解浸透を図る。さらに、保護者にも本校の教育方針や取組を理解いただくため、行事やスチューデントサロン等へ参加いただく機会を設ける。

④ 特記事項

なし

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

・教育理念や育成人材像については全体会議で共有が行われており、一定の理解促進が図られているものの、日常的かつ継続的に浸透させる仕組みづくりが今後の大切な課題と思われます。

TEAMS や Google チャットを活用した双方向の情報共有を進めることで、教職員間の連携がより円滑になるよう期待します。また、保護者連絡ツールを活用した情報発信を強化し、保護者の理解を深めていく取り組みについても評価します。今後は、全体会議や学校行事などの機会を通じて理念を繰り返し伝えていくことで、教職員・保護者双方にとってより身近で共有された価値として定着していくことを期待します。（山下委員：美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科）

・時代やサロンの形によって必要な技術やトレンドは変わりますが、最終的に現場で一番求められるのは「素直さ」や「礼儀」、「人の話をきちんと聞く姿勢」といった人間性の土台です。お客様や周りのスタッフに愛され、信頼関係を築くためにも、こうした「ホスピタリティ精神」を大切にしたい人材育成を続けていってほしいと思います。（村橋委員：美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

・適切な学校運営を行えている部分が多いが、コンプライス体制に関しては、教職員全員の意識・行動が高い水準に達しているとは言えないため、引き続き研修や管理体制の強化を行っていく。

・情報共有・情報収集の強化やシステム化を更に進め、働き方改革を進めることで、より効率的かつ効果的な業務遂行、学校運営を行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

・学園本部よりコンプライアンス研修を実施し、個人情報保護や SNS リスク、ハラスメント対策など教職員全体が適切な知識と対応をとれるようにする。また、全体会議等においても具体的事例を交えながら説明を行い、継続的な注意喚起を図る

・全国に姉妹校があるスケールメリットなども活かした、情報収集などによる効率化、情報システム化、業務の仕組化、任意の研修参加などにより教職員のレベル UP を図る。事務の効率化についても、全国的に取り組んでいる姉妹校の事例も参考にしながら効果的に活用していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・学校運営は概ね適切に進められており、日々の取り組みが着実に進められていることに評価します。

一方で、コンプライアンス体制については、教職員全体の意識や行動をより高い水準へ引き上げていくことが今後の課題といえます。今後は、情報共有やシステム化をさらに進め、働き方改革を通じて業務の効率化と運営の質向上を図る取り組みを期待します。学園本部による研修や具体的な事例を用いた注意喚起を継続しつつ、姉妹校の事例を参考に業務の仕組み化・効率化を進めることで、教職員のスキル向上につながることを期待します。（山下委員：美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4

人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・関連分野や関連企業・団体との連携強化を進め、今後も提携企業や実習先を増やしていく必要がある。
- また、関連分野における先端的な知識や技能を習得する為の機会が少ないため、教職員が業界動向を継続的に学べる環境づくりが必要である。
- ・学生数増加に伴い教員数も増加していることから、経験の浅い教員の育成が課題となっている。（現在はベテラン教員とペアで授業を実施している）

② 今後の改善方策

- ・業界との連携を更に強化し、実習先の充実や教職員の知識・技術向上に繋げられるよう、積極的な情報収集や企業訪問を実施する。
- ・教員研修等を通じて教員育成を行い、教育力向上を図る。実践的な授業科目については、企業様や卒業生を招いた授業を取り入れ、より実践的で学びがいのある教育を展開していく。あわせて、業界との繋がりを活かし、美容実習教員の確保も進めていく

③ 特記事項

- ・2026 年度途中から卒業生の常勤採用、非常勤採用を積極的に行っている

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・関連企業・団体との連携強化や実習先の拡充、先端的な知識・技能を学ぶ機会の不足、経験の浅い教員の育成など、教育活動の質向上に向けた課題が明確に整理、分析されている点は前向きと捉えられます。今後は、企業訪問や情報収集を重ねて業界とのつながりを深めるとともに、教員研修や実践的な授業の導入を通じて指導力の向上を図る取り組みを期待します。また、卒業生や企業を招いた授業の実施や美容実習教員の確保など、より実践的で学びがいのある教育体制の充実を期待します。（山下委員：美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科）
- ・美容業界は日頃からトレンドの変化がとても早いので、学校の先生方もサロンと定期的に情報交換をしたり、分野の専門職の方から直接お話を聞いたり、業界誌を読んだりして、常に新しい情報収集に努めることを期待している（村橋委員：美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・就職率が100%に至らなかった為2026年度は全員就職先を決定した上で卒業できるよう支援を強化していく。
- ・2025年度美容師国家試験の合格率は97.5%、実技合格率は100%、筆記合格率は97.5%となった。その他主要な資格の合格率も高水準だったので、今後もこの結果を継続していく必要がある。
- ・退学率に関しては昨年度から大幅に改善したが、さらなる低減が課題。（特に1年生の退学率）
- ・卒業後も卒業生との関係性の構築していく必要があること。（卒業生用公式LINEや、学園独自のシステムなど関係性を構築できる環境は整えられている）今後は卒業生に学校行事や授業等に積極的に関わっていただく

② 今後の改善方策

- ・高い資格合格率・取得率の継続できるよう、教科会の定期開催、常勤・講師との連携強化、授業・資格対策の質向上に取り組む
- ・退学率低減に向けては、授業や学校生活を通じて業界の魅力を伝える機会を増やし、特に早い段階で「楽しさ」や「達成感」を実感できるようにする。また、保護者との連携を強化するとともに、チーム担任制とし学生やクラスの状態に応じて適切な教員が対応できる体制を整備する。
- ・学生との「関係の質」を大切にし、入学初期段階から「どの担任・どの先生に相談してもよい」ことを伝え、学科・クラス・担任の枠を越えて生徒と関われる環境づくりを行う。加えて、定期的なアンケートを実施し、生徒の悩みや状況を把握することで、相談しやすい環境整備に努める。
- ・就職先のさらなる充実に向けては県内企業や施設への訪問、情報収集を強化し、新たな求人獲得に繋げていく。
- ・卒業後の関係性構築については、既に整備している仕組みを継続的に活用し、卒業生との繋がりを強化していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・就職率が100%に届かなかった点や、1年生を中心とした退学率の課題については、引き続き丁寧に改善方策へ取り組みをお願いします。（山下委員：美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科）
- ・美容師国家試験をはじめとする主要資格で高い合格率を維持していることは、大きな成果として評価します。今後は、教科会の定期開催や授業・資格対策の質向上により、この高水準を継続するとともに、早期の動機づけやチーム担任制による相談体制の強化を通じて退学率の低減を図ることが期待します。（山下委員：美容科、ヘア

メイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科)企業訪問や情報収集を進めて就職先の拡充を図り、卒業生支援の仕組みを活用した継続的な関係づくりが進むことで、より安心して学べる環境が整っていくと思われます。(山下委員:美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科)

・就職活動に向けて早めに準備してほしいのは、自分自身の頑張りや成長をしっかりと形にしておくことです。早期から、自分の目標や成果をまとめた「ループブック(自分 BOOK)」を作成したり、SNS を上手に活用したりして、日頃の努力や自分の強みを発信していく習慣をつけていくことが大切だと思います。(村橋委員:美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科)

・通信制高校では、新しい環境になかなか馴染めない生徒に対して、まずは初期の心の動機づけとして「安心できるコミュニティ(自分の居場所)」を提供することを日頃から心掛けています。専門学校でも、技術を教えると同時に、学生が「ここにいていいんだ」と思える居場所をつくってあげることが大切だと思います。(水澤委員:美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科)

(5)学生支援

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・進路・就職支援体制に関しては、沖縄県内での求人の獲得強化が課題(ネイル・まつエク)。
- ・学校独自の特待生制度や、学費サポート制度、スクールカウンセラーの設置、学園本部と連携したスクールソーシャルワーカーの設置など体制を整えているが、制度だけでなくチーム担任を中心として、学生がより相談しやすい学校、生徒の変化に教員から気付き声をかけられる学校にしていきたい。
- ・卒業後の支援体制はアプリやサイトもあるので上手く活用して軌道に乗せていきたい。

② 今後の改善方策

- ・企業訪問、連携などを強化し、沖縄県内からの求人確保に努める。(特にネイル・まつエク)
- ・チーム担任制を導入し、学生には初めの段階でどの担任、どの先生に相談しても OK なことを伝達。また定期的

にアンケートを実施し、悩みなどを把握、相談しやすい環境作りを実施。

- ・学生との関係の質を大切に、この先生・この学校は信頼できる、相談できるといった関係性を構築していく。学生やクラスの状態にあわせて、あつていそうな教員が面談や対応を実施。入学・進級直後での面談に加えて、学科、クラス、担任の枠を超えそれぞれの教員が各クラスに顔を出し、生徒の変化などを確認する、声をかける機会を増やす。また、教員間での情報共有をより加速させていく。⇒生徒の変化などをよりタイムリーに把握し、必要に応じて保護者の方にも協力頂き対応していく。
- ・学生のメンタルケアをサポートするため、スクールカウンセラーを設置しタイムリーに対応していく。
- ・学生が抱える様々な問題を解決する為に、スクールソーシャルワーカーを設置しタイムリーに対応していく
- ・同窓会 Sanko-Link や、卒業生用公式 LINE を活用し、卒業後の支援体制を軌道に乗せていく

③ 特記事項

- ・全国の姉妹校との連携を活かして、オンラインも有効活用しての進路・就職支援制度の整備は進んでいる。
- ・高校と連携し、部活動や、キャリアに対するサポート、取り組みを積極的に実施できている。
- ・保護者連絡ツール「スクレ」を導入し、保護者にも学校の取組を把握いただくために情報提供している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・進路・就職支援において、特に沖縄県内での求人確保を課題として捉え、企業訪問や連携強化を通じて求人拡大を図ろうとする方策がうかがえます。また、特待生制度や学費サポート、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置など、学生を支える体制が整備されている点は評価します。（山下委員：美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科）
- ・チーム担任制を中心に、学生が相談しやすく、変化に気付きやすい環境づくりを進めていることも適切です。
- ・卒業後の支援についても既存の仕組みを活用し、継続的な関係構築を図ろうとする取り組みは、学生の安心につながるものといえます。今後も姉妹校との連携や保護者連絡ツールの活用など、支援体制の充実が着実に進めていただきたい。（山下委員：美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・今後も実習やインターンシップ先の確保、質の向上を進めていく必要がある。
- ・施設設備の更なる整備が課題。

② 今後の改善方策

- ・積極的に情報収集や、企業訪問を行い、実習施設やインターンシップ先の充実を図っていく。
- ・施設設備の経年劣化より、プロジェクターの備品、階段手摺、HDMI コンテストなどのリニューアルし、ビルメンテナ

ンス企業様との連携を強化していく。

③ 特記事項

・教員、学生向けの AED 講習を実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

・実習やインターンシップ先の充実に向けて、企業訪問や情報収集を進めながら学びの場を広げようとしている点が前向きに感じられます。(山下委員:美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科)

・施設設備の経年劣化に対して、プロジェクターや手摺、HDMI 環境などの更新を計画的に進め、ビルメンテナンス企業との連携を深めていることも良い取り組みです。さらに、教員・学生向けの AED 講習を実施し、安全面への配慮を高めている点も評価できる。今後もこれらの取り組みを継続し、より安心して学べる環境づくりが進むことを期待します。(山下委員:美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科)

・お客様に喜ばれ、美意識を高められるような環境づくりや整理整頓は、イベントの時だけではなく、日頃から「日常なおもてなし」として実践できることが理想です。具体的には、音や体感といった「五感」に響く空間の演出や工夫に対して、学生たちが自ら気づき、主体的に行動できるようになっていくことが大切だと思います。(村橋委員:美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科)

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・定員充足率を 100%にする
 ・奨学金や高等教育無償化に関して、高校でしっかりと説明を受けていないケースが多くあるので、オープンキャンパスなどを活用して、本校からも説明や告知を行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

・SNS にて学校の魅力を発信する、進路ガイダンスに積極的に参加する、早期対策などを含めた広報活動の更なる対策強化を行う。
 ・オープンキャンパスや、進路ガイダンス、高校訪問などで十分に説明、告知を行っていく。
 ・県内高校の大学進学率や県外に進学する高校生の増に伴い、大学と専門学校との違いや県外に進学する費用の差などを説明していく。

③ 特記事項

・一般社団法人沖縄県専修学校各種学校協会に加盟し、同会で定められた生徒募集ルールに則り取り組んでいる。併せて、沖縄広報室からの支援も受けて募集活動に取り組んでいる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・定員充足に向けて、広報活動の強化や情報発信の工夫に取り組もうとしている点が前向きに感じられます。奨学金制度や高等教育無償化について、高校生への説明不足を補うために、オープンキャンパスや高校訪問を通じて丁寧に案内していく姿勢も評価します。さらに、大学進学志向の高まりや県外進学者の増加を踏まえ、専門学校の学びや費用面の特徴を分かりやすく伝えようとしている点も適切であり、加えて、募集活動を協会ルールに沿って進め、沖縄広報室の支援を受けながら取り組んでいることは、健全で信頼性の高い運営に寄与しているようです。（山下委員：美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科）

・今はわざわざ早い段階から都会に出なくても、地方の学校にいながらオンラインを通じて有名な美容師の方々と関わることができ、最先端の技術レベルをそのまま学べる時代です。こうした「都会と同じクオリティの教育を地元でしっかり受けられること」こそが、今の地方の学校で学ぶ大きな価値であり、高校生や保護者の方への強い安心感に繋がると思います。（村橋委員：美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

・今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

・第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・自己評価で浮き彫りになった課題を解決していく必要がある。

② 今後の改善方策

・各項目、自己評価で浮き彫りになった課題に対して、しっかりと改善策を実施していく。

④ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・自己評価で明らかになった課題に丁寧に向き合い、改善に取り組もうとする姿勢がうかがえます。

各項目で浮き彫りになった点について、改善策を着実に実施していこうとする取り組みは、組織としての健全な運営につながるものと期待します。今後も自己評価を基盤に、より良い体制づくりを進めていくことを期待します。(山下委員:美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科)

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

・社会貢献活動・地域貢献活動・ボランティア活動などを積極的に行い、地地域の活性化などに繋げることができたので、こういった活動をより継続・強化していきたい。

② 今後の改善方策

・社会貢献活動・地域貢献活動・ボランティア活動を引き続き継続・強化していく。

⑤ 特記事項

・専門実践教育訓練給付金対象の学生が初めて卒業した

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

・社会貢献や地域貢献、ボランティア活動に積極的に取り組み、地域の活性化に寄与してきた点は大きな意義を感じます。今後もこれらの活動を継続し、さらに広げていこうとする姿勢は、本校の社会的役割をより強めるものとして評価します。（山下委員：美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科）

・専門実践教育訓練給付金対象の学生が初めて卒業したことは、教育の質と支援体制が着実に成果へとつながっていることを示しています。こうした取り組みを継続し、地域とともに成長する学校づくりが進むことを期待します。（山下委員：美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科）

・今後、地域社会や美容業界を盛り上げていくためのアイデアとして、例えば闘病中の方や患者様に向けたネイル施術などを行っている学校もあります。貧困家庭向けのボランティアサロンや、一人暮らしの高齢者の方々が「気分が上がる機会」をつくるなど、『美容室は街の保健室』という意識を持って、地域の健康や福祉に深く関わっていく取り組みも大変有意義だと思います。（村橋委員：美容科、ヘアメイク科、トータルビューティー科、ブライダルプロデュース科、美容研究科）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

① 地方で学ぶ価値と早期のキャリア育成

オンラインやネットワークを活かし、沖縄にいながら全国トップクラスの技術を学べる環境を維持・強化できるように致します。また、早期から「自分 BOOK(ループブック)」の作成や SNS の活用を指導し、変化の激しい業界トレンドに遅れない情報収集力と、自信を持って就職に挑める発信力を育てられるように教育活動をしていきます。

② 安心できる居場所づくりと生活習慣の確立

入学初期の不安に寄り添い、まずは学校が「安心できる自分の居場所(コミュニティ)」となる環境づくりを作ります。また、学科の枠を越えたチーム担任制で学生の小さな変化に気づいて声をかけ、登校習慣などの生活習慣(ノーム形成)を徹底してサポートします。

③ 五感の日常おもてなしと「街の保健室」としての地域貢献

業界で求められる「素直さ・礼儀・傾聴力」を磨くため、校内の音や体感など「五感」に響く空間づくりに、学生自身が日常から自ら気づき行動できるプロ意識を養えるよう授業や実習を通じて伝えていきます。さらに「美容室は街の保健室」という意識を持ち、福祉や健康とも繋がる新たな地域貢献を実践してまいります。